

## 入社・入学までに準備しておくこと

就職試験も終盤戦。進学試験も専門学校の試験がほぼ終わり、大学・短大の入試が始まっています。すでに多くの3年生が内定や合格をいただいています。これがゴールではありません。企業や上級学校で働いたり学んだりするためのスタートラインにつく資格を獲得できたということです。これからは、入社・入学後に役立てられるように、そのために必要なことを進路別にあげると……。将来のための本当の学びが必要になります。



### ○ 就職の場合

- ① **時間を守る** 仕事で信用されるための第一歩となります。
- ② **自ら学ぶ** 仕事に必要な知識、技能や社会人としての一般常識などを身に付けるため日々の勉強が必要。働く中で、自分から学ぶ姿勢が大切です。
- ③ **健康管理** 体調を崩して休みをとると、他の人に迷惑をかけることも…「働き続けられる体力」を維持することも大切です。
- ④ **言葉遣い** 社会人になれば、みなさんの保護者よりも年上の方とも一緒に働くことになります。職場によっては「お客様」と接することもあります。当然、**言葉遣いや挨拶**にも気を配る必要があります。

### ○ 進学の場合

上級学校に入学した後に必要とされる力を身に付ける必要があります。

#### ① さまざまな文献を読んでまとめる力

大学では英語の文献を読むこともあります。

#### ② レポートを書くための文章力

提出したレポートで評価される科目もあります。

#### ③ 講義に対応できる基礎学力

工業高校は、普通高校より普通教科の授業時数が少ないので、入試にない科目も、入学後も困らないように学んでおく必要があります。また、高校生よりも大人として扱われるので、より自主的に勉強する姿勢が必要になります。



## 悪戦苦闘能力 ～実社会で必要とされる能力とは・・・～

皆さんは、それぞれの最終学歴となる学校を卒業後、約40年間におよぶ社会人としての人生を歩んでいかなければなりません。力強く生き抜くためには、「どのような力が必要なのか」、その力を身に付けるためには「どうしなければならないか」を早い段階で認識し、行動・実践していくことが大切です。どのような難問にぶつかっても**へこたれず、粘り強く**、あらゆる可能性を探っていくことが**悪戦苦闘能力**です。その能力を身に付けるために心掛けておく5つの項目を示します。参考：大畑誠也氏（元熊本県立高等学校長）の提唱から

- ① 挨拶…挨拶はコミュニケーションのスタートラインであり、**信頼ある人間関係**をつくるためである。
- ② 体力…「疲れる」や「眠い」と言うのは食生活に原因がある。意欲・根性・勇気は食物こそ体力の源泉となる。
- ③ 感性…**人の気持ちが分かる人**。そのための体験学習で一番ためになるのは家の手伝いをする事。
- ④ 集中…**想いや目標**がなければひたむきさ(集中)は生まれにくい。全てはこうしたいとの想いからスタートする。
- ⑤ 思考…自分の考えを持つ。第一に本を読むこと。第二に人の話をメモしながら聴くこと。それらを自分の中で熟成させたとき、自分の考えになる。

就職をしたら、職業人として、進学をしたらより専門性の高い知識や技術を学ぶことになります。

プロとは何か、参考にしてみてください。（藤尾秀昭氏 「プロの条件」から引用）

## プロの条件

職業のジャンルを問わない。仕事をすることによって報酬を得ている人は、そのことによって、すでにプロである。また、プロでなければならないはずである。

しかし、現実にはプロとしての仕事の仕方をしていない人が相当数いることも事実である。

プロとアマの違いは何だろうか。プロとアマの違いを考えて見よう。

それは次の4つに集約されるのではないかな。

第一は、プロは「**自分で高い目標を立てられる人**」だということである。

自分なりにほどほどやればいい、身の程度でいいだろうと、目標をできるだけ低く設定しようとするのがアマである。

プロは違う。プロは自分で高い目標を立て、その目標に責任を持って挑戦していこうとする意欲を持っている。

第二は、「**約束を守る**」ということだ。

約束を守るというのは、成果を出すと言うことである。自分に与えられた報酬にふさわしい成果をきっちりと出せる人、それがプロである。

成果を出せなくてもなんの痛痒(つうよう)も感じず、やれなかった弁解を繰り返してやり過ごそうとする者がいる。アマの典型である。

第三は「**準備をする**」。

プロは「絶対に成功する」という責任を自分に課している。絶対に成功するためには徹底して準備をする。準備に準備を重ねる。自分を鍛えに鍛える。そうして勝負の場に臨むから、プロは成功するのである。

アマは準備らしい準備をほとんどせず、まあ、うまくいけば勝てるだろうと、安易な気持ちで勝負に臨む。

この差が勝敗の差となって表れてくるのである。

表現を変えれば、プロは寝ても覚めても考えている人である。起きている時間だけではない、寝ていても夢の中まで出てくる。それがプロである。少しは考えるが、すぐ他のことに気を取られて忘れてしまうのがアマの通弊(つうへい)である。

第四は、これこそプロとアマを分ける決定的な要因である。プロになるには欠かせない絶対必要条件だといえる。

それは、プロは、「**進んで代償を支払おうという気持ちを持っている**」ということだ。

プロであるためには高い能力が不可欠である。その高い能力を獲得するためには、時間とお金と努力を惜しまない。犠牲をいとわない。代償を悔いない。それがプロである。

犠牲をけちり、代償を渋り、自己投資を怠る人は絶対にプロになれないことは自明の理であろう。

最後に一流と言われるプロに共通した条件をあげる。

それは、「**神は努力する者に必ず報いる、と心から信じている**」ということである。

不平や不満はそれにふさわしい現実しか呼び寄せないことを知り、感謝と報恩の心で生きようとする、それが「一流プロ」に共通した条件であることを付言しておきたい。